

経営者に聞く

人と技術を未来へつなぐ ——社会インフラを支える誇り

大東電業株式会社

取締役社長 鈴木 康世



弊社は1962年の設立以来、送電線工事を中心に電力インフラの構築と保守を担い、社会の安定した電力供給に貢献してまいりました。電気は現代社会の基盤であり、その供給を支える送電線工事は、人々の暮らしや経済活動に欠かせない重要な役割を果たしています。加えて、情報通信工事の分野にも早くから取り組み、携帯電話基地局や気象レーダー、ETCシステムなど社会の利便性と安心を支える通信インフラ整備を進めてきました。近年ではドローンを活用した設備点検や災害時応動にも挑戦し、先進的な技術を積極的に取り入れることで、安全の先取りと効率性の向上を図っています。

こうした事業の根底にあるのが「安全・品質・原価管理」の三本柱です。安全はすべてに優先し、事故のない職場環境を整えることが第一です。次に、顧客や地域社会から信頼を得られる高品質な施工を実現すること。そして効率的な管理を徹底し、持続可能な経営を確立すること。この三つを徹底することが、弊社の経営姿勢であり、社員一人ひとりの行動指針となっています。

現在、弊社が直面している大きな課題は「技術継承」です。電力や通信に関わる技術には、長年の経験を通じて培われた知識や判断力が数多く存在し、マニュアルだけでは伝えきれません。たとえば「なぜその施工方法が最適なのか」「どの状況でどの判断をすべきか」といった知恵は、現場で先輩社員と共に働くことで初めて身につくものです。弊社では、OJTを軸にベテランと若手が共に学ぶ体制を整え、単なる作業習得にとどまらない「考える力」の養成に力を注いでいます。

社員教育の一環としては、年1回の安全大会に加え、各種研修を年に数回実施しています。安全大会は、建設業における事故や災害を防ぐために、

安全衛生に関する知識を深める重要な集会であり、自社の社員のみならず取引先や関係会社の方々も参加し、工事に携わるすべての人が一堂に会して安全意識を高めます。こうした取り組みを通じて、施工技術だけでなく安全意識やチームワークの重要性を学ぶ機会を設けています。また、優良現場や表彰の受賞は、社員の努力が形として評価された証であり、誇りを持って働ける大きな励みになっています。

また、社員の多様性を尊重し、それぞれが持つ強みを活かすことも欠かせません。世代や背景の異なる社員が互いに学び合う風土は、新しい発想や改善を生み出す原動力となります。非言語も含めた丁寧なコミュニケーションを大切にし、現場で安心して働ける関係性を築くことが、安全や品質の確保にも直結すると考えています。

さらに、地域社会とのつながりも重要です。送電線や通信設備は地域の暮らしを支える基盤であり、私たちの仕事は常に地域社会と共にあります。近年は災害時の迅速な復旧対応や、ドローンを活用した被害調査など、地域の安心を守る取り組みも進めています。電気と情報を安心して使える環境を守ることは、人々の安全と生活の質を守ることに直結します。弊社はこれからも「地域に必要とされる存在」であり続けたいと願っています。

これからの社会インフラは、気候変動や自然災害への備え、デジタル技術の進展など、これまで以上に多様な課題に直面します。私たちは挑戦を恐れず、新しい技術を柔軟に取り入れながら、社員一人ひとりが誇りを持って働ける会社づくりに努めてまいります。そして、人と技術を未来へつなぎ、社会から信頼され続ける企業であることを目指して歩を進めてまいります。